

## 各階の配置

### そとのひろば

主玄関口にある、大きな庇を設けた空間です。イベントにも活用し、にぎわいを生み出して人々を迎え入れます。

### なかのひろば

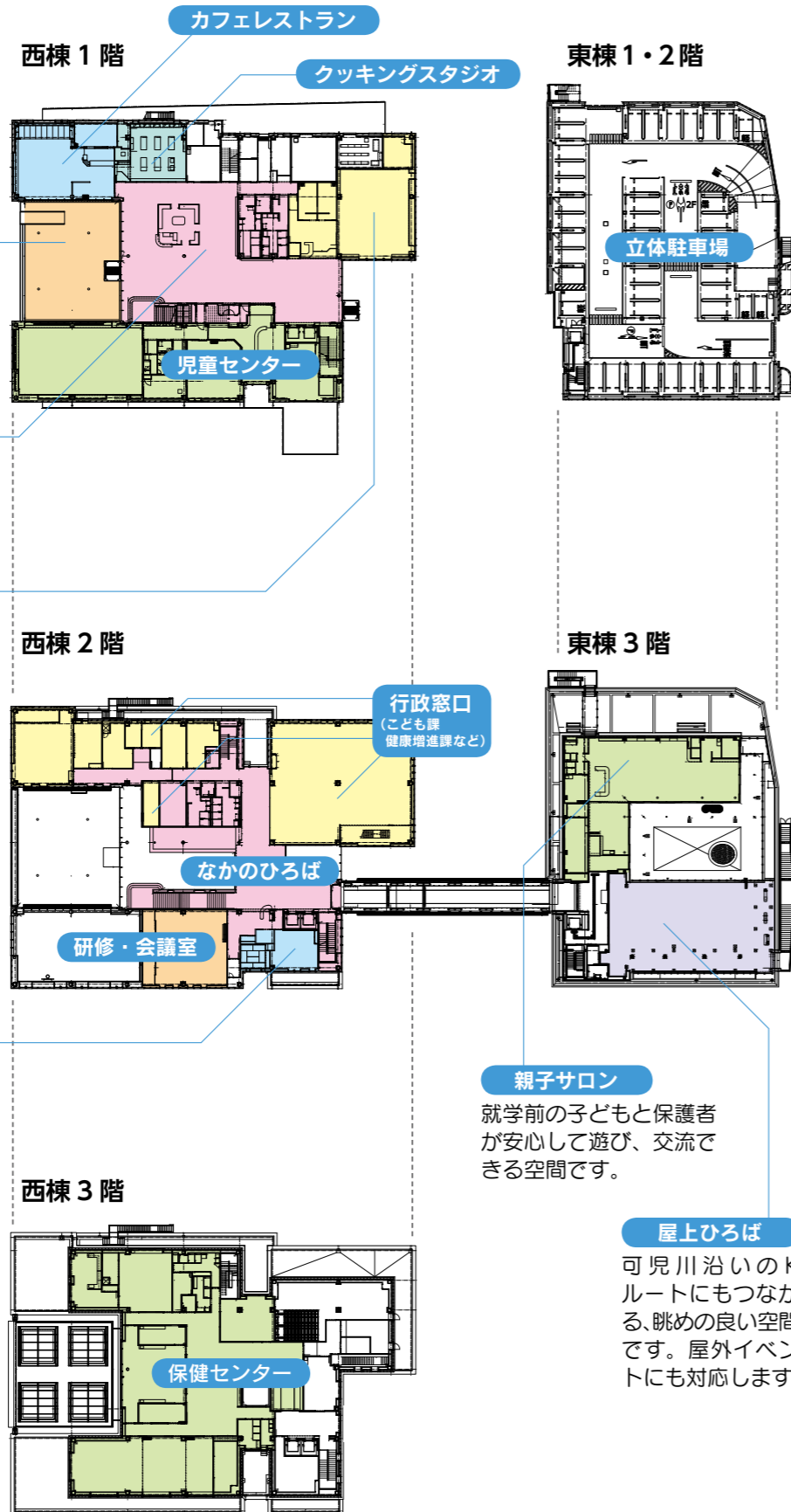
特産品などの展示・販売を行うアンテナショップ、ベビーブック（母子健康手帳の先駆け）を生み出した久々利出身の海老衣子（1901～1936）にちなんだ展示コーナーも配置します。

### 健康スタジオ

子どもから高齢者までライフステージに合わせて健康づくりを実践できる場です。

### 市民活動ルーム

子育て支援に取り組む市民の活動拠点となる部屋です。子育て中の人々が足を運び、静かに悩みや不安を話せる部屋もあります。



# 駅前拠点施設 間もなく着工



完成イメージ

## 子育て世代の安心づくりの実現に向けて

市は、可児駅前の公共用地に建設する「仮（可児駅前）子育て・健康にぎわい空間（施設）」以下、「拠点施設」について整備を進めています。今年9月に着工し、平成30年春の開館を目指し、拠点施設の概要をお知らせします。また、拠点施設の整備と並行して取り組んでいる、子育てを総合的に支援する仕組みづくりについてもお知らせします。

市は、子育ては子どもがお腹の中に宿ったとき（マイナス10カ月）から始まると思え、その指針を「マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て」とし、地域・社会みんなで子育てに関わっていく取り組みを推進していきます。

また、市の駅前の活性化のための公共用地を可児駅前に確保しています。この公共用地については、平成26年3月に策定した機能配置方針の中で、子育て支援・市民の健康づくりの推進・多世代の交流にゆだねるにぎわい創出を兼ね備えた空間整備の必要性を打ち出しました。これを受け、子育てを総合的に支援する場として、拠点施設を建設することになりました。

## 設計の概要と主な機能

建築面積 約4081㎡  
延床面積 約8003㎡  
構造 鉄骨造3階建て  
駐車台数 約90台

施設は可児川の景観など、周辺環境との調和を重視したつくりとなっています。可児駅と可児川を直線的に結ぶ敷地の特徴を生かし、機能を分散配置することで階数を3階に抑えました。また、建物内外には「そとのひろば」「なかのひろば」「屋上ひろば」の3つの広場を設けました。これらをつなぐことで、奥行きのある、市民が安全に行き交う空間を確保し、交流にぎわいを生み出します。



なかのひろば (完成イメージ)



**多様な市民の意見を聞き取り**

前述の機能配置方針を基に、拠点施設で実現して頂くことを詳細に検討し、その内容を具体的に示した企画設計書を平成26年10月に策定しました。このほか、拠点施設に求められる施設機能や規模、配置などを整理し、施設設計の基礎資料としました。また、拠点施設のあり方について、次のように定めました。

**子育て支援の拠点**…市の重点方針「子育て世代の安心づくり」の実現に向けて、子育てを総合的にサポートする場として。

**健康づくりの拠点**…子どもから高齢者まで、生涯にわたって健康で暮らし続けることを目指す場として。

**交流・にぎわいの拠点**…駅前という立地を生かし、子育てや健康に関する公共サービスを提供し、新たな人の流れをつくり出します。

その後、基本設計や詳細設計を進め、今年3月に全ての設計を完了しました。

これらの設計作業に当たっては、子育て世代の市民や関係団体の代表者、子育て関連施設の利用者などを対象に、市民ワークショップやアンケート、



市民ワークショップの様子

アンケート調査、パブリックコメントを実施しました。このような機能が必要か、使いやすい施設に必要なことなど、皆さんからたくさんのご意見をいただき、拠点施設の設計を進める際の参考にさせていただきます。

**私たちも期待しています**



栗野 瞳さん (桂ヶ丘)

子育て中に感じたことや助けになったことを同じ立場のお母さんに伝えたいと思い、市民ワークショップに参加しました。

拠点施設には、子育て中の方が気軽に利用できることを期待しています。子どもの年齢や成長に応じて、施設の利用の仕方や必要な設備は変わりますが、どんな年齢の子を持つ親にも利用しやすい施設になればと思います。

また、幅広い世代が利用すると思うので、世代間の交流ができると思います。たくさんの人と関わり、周りの人が見守ってくれているという安心感を持ってもらえれば、子育てに関わる人が集まるにぎやかな施設になるのではないのでしょうか。

開館に向けて、行政だけでなくたくさんの方が関わることで、誰もが使いやすい施設になってほしいですね。

**施設のシンボルマークを定めました**



拠点施設を中心に広がる人々の触れ合いを、3体のキャラクターで表現しました。キャラクターに囲まれた部分からは、子育て・健康・交流という施設のコンセプトの頭文字Kが浮かび上がる、遊び心を持ったデザインです。

また、マークは美濃桃山陶を代表する志野と、可児市の将来を担う子どもたちの力強さをイメージした配色としました。

シンボルマークは、今後さまざまな媒体で使用していきます。

**市民の誇りとなる施設に**

拠点施設は子育て世代の安心づくりを支える重要な場所であるとして、市民の皆さんからの期待の声も大きくなっています。誰もが出来る良かった実感できる、誇れる施設となるよう今後も取り組みを進めていきます。

施設の検討内容、建設状況については随時その情報をお知らせしていきます。また施設の工事などご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

問合せ先 子育て拠点準備室

**子育てをサポーターする仕組みづくり**

**始まっています**

① **拠点施設の整備と並行し、子育て世代の安心づくりの実現に向け、拠点施設を中心として全市を挙げて取り組む子育てを総合的に支援する仕組みづくりも進んでいます。**

仕組みは大きく分けて5つあります。

② **子どもの発達に不安を抱えた親子も・家庭へのアプローチ**

発達に特性のある子どもが安定した環境で過ごせるよう支える仕組みづくりが重要です。家族や保育園・幼稚園、学校などの関係者が子どもの特性を理解し、適切な支援方法を発見・確認できるよう、専門職による支援チーム(仮)可児市子ども発達支援室を創設します。今年度は関係施設の巡回訪問や調査研究を行います。

③ **拠点施設と地域の子育て支援の連携**

地域における子育て支援への関心は高く、多くの団体が活動しており、支援に関わる人の交流・情報ニーズも高まっています。市内の団体や施設の情報を整理し、拠点施設を中心とした

④ **市民ボランティアが子育て支援に関わる仕組み**

連携体制や運営サポート体制を検討・構築していきます。

地域で活躍するボランティアの活動を継続的なものとするため、活動者のスキルアップや活動拠点・交流機会の創出などが求められています。

拠点施設内に市民活動ルームを設置し、市民団体やボランティアの活動・交流・情報支援の拠点とします。

また、ボランティア活動の新たな窓口として、専門知識や能力を備えたボランティアの登録制度「可児市子育てピアサポーター」を平成27年度に開始しました。引き続き登録者を増やすとともに、リーダーを担う人材の育成支援を進めます。

⑤ **多様な市民の交流による絆づくり**

拠点施設には、子育て世代を中心とする多くの市民が訪れる見込みです。拠点施設を多様な市民や世代間の絆づくりの場として、また可児駅前エリアのにぎわい創出の中心的存在として長く愛される施設とするために、日常的な情報発信やイベントなどを検討していきます。



かにっ子ナビの利用画面

平成26年3月	機能配置方針策定
7~9月	市民ワークショップ、アンケート調査を実施
10月	施設企画設計書策定
平成27年4~11月	市民ワークショップを実施
8月	パブリックコメント実施(12人から30件の意見)
平成28年3月	実施設計を完了
9月	着工
平成30年 春	竣工・開館